

# ナホム書

## 第一章

ニネベに關る重き預言エルコシ人ナホムの異象の書

エホバは妬みかつ仇を報ゆる神エホバは仇を報ゆる者また忿怒の主エホバは己に逆らふ者に

仇を報い己に敵する者にむかひて憤恨を含む者なり エホバは怒ることの遅く能力の大なる者また罰すべき者

をば必ず赦すことを爲ざる者エホバの道は旋風に在り大風に在り雲はその足の塵なり 彼海を指斥て之を乾か

し河々をしてことごとく涸しむバシヤンおよびカルメルカルメルの草木は枯れレバノンの花は凋む 彼の前には山々ゆ

るぎ嶺々嶺々溶く彼の前には地墳上り世界およびその中に住む者皆ふきあげらる 誰かその憤恨に當ることを得ん

誰かその燃る忿怒に堪ることを得ん其震怒のそゞぐこと火のごとし巖も之がために裂く エホバは善なる者に

して患難の時の要害なり彼は己に倚頼む者を善知たまふ 彼みなぎる洪水をもてその處を全く滅し己に敵する

者を幽暗處に逐やりたまはん

九 汝らエホバに對ひて何を謀るや彼全く滅したまふべし患難かさねて起らじ 彼等むすびからまれる

荆棘のごとくなるとも酒に浸りをとるも乾ける藁のごとくに焚つくさるべし エホバに對ひて惡事を謀る者

一人汝の中より出て邪曲なる事を勸む エホバかく言たまふ彼等全くしてその數夥多しかるとも必ず爰たふさ

れて皆絶ん我前にはなんぢを苦めたれども重て汝を苦めじ いま我かれが汝に負せし軛を碎き汝の縛を切はな

イ番二・一三 一八 哈三・五、一、一二 五米一・四 二一 哀三・二五 ツ母前三・一二 ム王下一九・三五、

出二〇・五、三四 二出三四・六、七、九 九 賽ル彼後三・一〇 三詩一・六 提後二・ ツ母後二三・六、七 三七

一四 申四・二四 卷 一七 詩一〇三・八 五〇・二 太八・二六 七 馬三・二 一九 一 賽八・八 但二・

二四・一九 拿四・二 二 賽三三・九 七 歌一六・一 夕但九・二六、一一 一 馬四・一 一〇 申三二・三五 詩 九四・一 賽五九 へ詩一八・七、九七、二 又士五・五 詩九七 一〇〇・五 耶三三 一 詩二・一 二三

ノ王下一九・三七  
オ賽五二・七 羅一〇  
ク賽一・二一、二二  
ケ耶五一・二一、二二  
コ詩八〇・一二 何  
エ賽六三・二、三  
フ賽一〇・一二 耶  
一〇・一  
ラ賽三八・二四、五九  
サ但五・六  
キ耶三〇・六  
ユ耳二・六  
メ伯四・一〇、一一 結  
ミ結二九・三、三八  
三、三九・一 魯三  
・五

すべし

一四 エホバ汝の事につきて命令を下す汝の名を負ふ者再び播るゝこと有じ汝の神々の室より我雕像および鑄像を除き絶べし我汝の墓を備へん汝輕ければなり

一五 嘉音信を傳ふる者の脚山の上に見ゆ彼平安を宣ぶユダよ汝の節筵を行ひ汝の誓願を果せ邪曲なる者重て汝の中を通らざるべし彼は全く絶る

### 第二章

一 擊破者攻のほりて汝の前に至る汝城を守り路を窺ひ腰を強くし汝の力を大に強くせよ エホバはヤコブの榮を舊に復してイスラエルの榮のごとくしたまふ其は掠奪者これを掠めその葡萄蔓を壞

二 その勇士は楯を紅にしその軍兵は紅に身を甲ふ其行伍を立つる時には戰車の鐵灼爍て火のごとし鎗また閃めきふるふ 戰車街衢に狂ひ奔り大路に推あふ其形狀火炬のごとく其疾く馳すること電光の

三 如し 彼その將士を憶ひいだす彼らはその途にて躓き仆れその石垣に奔ゆき大楯を備ふ 河々の門啓け宮消

四 うせん この事定まれり彼は裸にせられて擄はれゆきその宮女胸を打て鴿のごとくに啼くべし

五 ニネベはその建し日より以來水の滿る池に似たりしがその民今は逃奔る止れ止れと呼ども後を顧る者なし

六 白銀を奪へよ黄金を奪へよその寶物限なく諸の貴とき器用夥多し 滅亡たり空虚なれり荒果たり心は消え

七 膝は慄ひ腰には凡て劇しき痛あり面はみな色を失ふ 獅子の穴は何處ぞや少き獅子の物を食ふ處は何處ぞや

八 雄獅子雌獅子その小獅子とともに彼處に歩むに之を懼れしむる者なし 雄獅子は小獅子のために物を嚙ころし

九 雌獅子の爲に物をくびり殺しその掠獲たる物をもて穴に充しその裂殺しゝ物をもて住所に滿す 萬軍のエホバ



言たまふ視よ我なんぢに臨む我なんぢの戦車を焚て煙となすべし汝の少き獅子はみな劍の殺す所とならん我また  
汝の獲物を地より絶べし汝の使者の聲かさねて聞ゆること無らん

第三章

禍なるかな血を流す邑その中には全く詭譎および暴行充ち掠め取ること息まず 鞭の音あり  
輪の轟く音あり馬は躍り跳ね車は軛り行く 騎兵馳のほり剣きらめき鎗ひらめく殺さるゝ者夥多

しくして死屍山を爲し死骸限なし皆死屍に躓きて倒る 是はかの魔術の主なる美しき妓女多く淫行を行ひその

淫行をもて諸國を奪ひその魔術をもて諸族を惑したるに因てなり 萬軍のエホバ言たまふ視よ我なんぢに臨む

我なんぢの裳裾を掲げて面の上にまで及ぼし汝の陰所を諸民に見し汝の羞る所を諸國に見すべし 我また穢

はしき物を汝の上に投かけて汝を辱しめ汝をして賽物とならしめん 凡て汝を見る者はみな汝を避て奔り去り

ニネベは亡びたりと言ん誰か汝のために哀かんや何處よりして我なんぢを弔ふ者を尋ね得んや

汝めにノアモンに愈らんやノアモンは河々の間に立ち水をその周圍に環らし海をもて壕となし海をもて垣

となせり かつその勢力たる者はエテオピア人およびエジプト人などにして限あらずフテ人ルビ人等汝を助け

たりき 然るに是も俘囚となりて擄はれてゆきその子女は一切の衢の隅々にて投付られて碎け又その尊貴者は

籤にて分たれ其大なる者はみな鎖に繋がれたり 汝もまた醉せられて終に隠匿ん汝もまた敵を避て逃るゝ處を

尋ね求めん 汝の城々はみな初に結びし果のなれる無花果樹のごとし之を撼がせばその果落て食はんとする者

の口にいる 汝の中にある民は婦人のごとし汝の地の門はみな汝の敵の前に廣く開きてあり火なんぢの關を焚

イ王下一八・一七、一 二第四七・九、一 二 一六・三七 米一・ 又歌一八・一〇 カ詩一三七・九 祭レ耶二五・一七、二七 ネ詩一四七・一三 耶

九、一九・九、二三 一八・二三 一〇 何一三 第一・一〇 五二・三〇

口結三二・二、三、二四 ホ翁二・二三 二 耶一・一〇 五二・三〇

六、九 哈二・一二 一三三・二、三、二六 結 一三三・二、三、二六 結 一三三・二、三、二六 結 一三三・二、三、二六

ナ魯二・一  
 ラ耳一・四  
 ム歌九・七  
 ウ那五〇・一八 結 七六・六  
 三三・三  
 ノ王上二二・一七  
 一五 察一四・八  
 中出一五・一六 詩 オ米一・九

一四 汝水を汲て圍まるゝ時の用に備へ汝の城々を堅くし泥の中に入れて踐て石灰を作りかつ瓦燒窯を修理へよ  
 一五 其處にて火汝を燒き劍なんぢを斬ん其なんぢを滅すこと吸蝗のごとくなるべし汝吸蝗のごとく數多からば  
 一六 多かれ汝群蝗のごとく數多からば多かれ 汝はおのれの商賈を空の星よりも多くせり吸蝗掠めて飛さる  
 一七 汝の重臣は群蝗のごとく汝の軍長は蝗の群のごとし寒き日には垣に巢窟を構へ日出きたれば飛て去るその  
 一八 在る處を知る者なし アッスリヤの王よ汝の牧者は睡り汝の貴族は臥す又なんぢの民は山々に散さる之を聚む  
 一九 る者なし 汝の傷は愈ること無し汝の創は重し汝の事を聞およぶ者はみな汝の故によりて手を拍ん誰か汝の  
 悪行を恒に身に受ざる者やある

ナホム書をはり